

鬼が笑う

東京大学医学部医用
電子研究施設教務員
日本健康科学学会評議員

山野井 昇

来年のことを言うと鬼が笑う。ん、鬼の居ぬ間に洗濯、鬼のということわざがある。先の一念仏、鬼の目にも涙、鬼も十八とは誰も予想がつかないし、わからぬからだ。しかし最近、将来のことを言うと、どうやら鬼は心配するらしい。その理由は、わが国が将来に向かって着実に高齢化の道を歩んでいるからだ。寝たきり老人の数ももうすぐ百万人を超えると予想されている。鬼も老化に伴って自分の悩み事や社会の心配事が色々増えるのだろうか。

ところで鬼といえば、いかにも恐いイメージを連想する。ことわざにも色々な鬼が登場するが、たとえば鬼の霍乱（かくらが、たとえば鬼の霍乱（かくら

鬼に仮想したナマハゲは、白い深雪に埋もれた一軒一軒の家庭を順番に回り、待ち受ける子ども達は、その恐い仮面をみて泣き出したり、逃げ出したり、顔をひきつらせながら、親の言うことをきく良い子になることを約束させられる。

昔から恐怖体験は生活のなかに密着した存在として、子供の弛んだ気持ちを引き締めた。

高校野球での鬼監督は子供たちを勝利に導くために統一のシンボルでも有る。鬼は善にも悪にも規律や精神修養、倫理・道徳の罰せられる恐い存在として畏敬の対象となってきた。

しかし都市部では、このような幼児期の教育的な意味を兼ねた風習はない。まして先生が生徒こどもに対して、昔のような体罰を加する風景も見られなくなった。逆に子供たちは豊かで便利な生活環境のなかで過保護に育て上げられているのが実状である。

現在のこども環境の特徴と問題を端的に表現すると、塾、ファミコン・ゲーム、アトピー、小児成人病であり、とくに健康不安が増え続けている。これは生活様式の西洋化とともに、まず衣食住の環境が大きく変わったことも影響を与えた要素のひとつである。冷暖房などの機械環境が整い、核家族化、食のコンビニ化が進み、躰の厳しさがなくなり、モノの善悪をたしなめる鬼の存在がなくなってきたからであろう。

ところで最近、二十歳代の青年における正義感が低下していることがある調査で明らかになった。これは、事件の問題解決に際し、暴力団に頼むことのは非を問うた調査である。三十歳代以上の多く年代群が頼むべきではないと答えたのに対し、二十歳代の青年間では、これを容認する意見が多く回答されたのである。

もし現在のこども達が、この

年代の青年に達したときに、果たしてどのような答えが返ってくるかを想像したとき、なにかしら背筋が寒くなることを禁じ得ない。

ここではじめて鬼はふと我に帰り、これからは高齢社会のことばかりを心配してはおれないことも達の将来について大変気にし出したのである。

鬼にはもう一つの不可解な心配事があった。それは今のおとな達が幼児期によく聞かされて育った桃太郎の鬼退治の逸話である。というのは、桃太郎が連れてきたイヌとキジとサルだが、どうもあれはキビ団子で買収されたのではないかという疑いである。とかくこの世は汚職政治に代表されように、お金やモノに左右されやすい。島の仲間の鬼も、お腰に付けたキビ団子に釣られて集まった桃太郎軍団に征伐され、赤鬼や青鬼の財宝はすべて奪いとられ持って帰られてしまったのだという。もちろん

ん童話の意図するところは全然違うわけであるが、鬼の目からはこのように映るのである。

鬼を退治するという善行も、キビ団子という報酬をもって実行する ストリーがいま一つ納得できないし、これが日本人の思想の底流にあるからだという。宗教はあっても行動がないといわれている日本では、ボランティアは根づかないとよく言われる。有料ボランティアという理解に苦しむ言葉を聞くことがあるが、ボランティアは報酬を求めず、みずから意思で行う行為である。PKOやカンボジアでの報道のように一種の危険を伴うこともあるが、これからの世界情勢を眺めても、世界平和維持や地球環境問題をはじめに、ボランティア精神の育成が重要なキーワードになってくる。

アメリカ社会には企業利益の1%を社会還元金として社会慈善団体に寄付をする習わしがある。また、アメリカではホスピ

スをはじめ各種のボランティアが社会のあらゆる所で活躍している。

最近日本でもやっとな企業なかで地球環境課の設置や、文化・芸術・平和活動のメセナの組織化が行われてきた経由がある。しかし、今日の予期せぬ経済不況という荒波に遭遇して、逆にその精神が退行している事態が生じている。むしろ、こういう時だからこそ積極的に社会貢献を考える必要があり、たとえば円高差益などの特典を活かしてこれを当てるべきである。

ボランティアといえば先日ある月刊誌の対談で、私は聖路加病院の日野原重明院長とお会いしたが、その際、先生は院内ボランティアの活動の様子を笑みをもって語っていた。ボランティアが医療活動に付随する患者ケアの一翼を担っているのだ。

二十一世紀社会はますます国際社会と高齢社会に向かって進

むと言われている。なかでも福祉ボランティアの奉仕活動はとくに貴重な善行である。

また鬼の話で恐縮だが、法華経には鬼子母神という諸天善神が所々の説法、逸話に登場する。一般には美しい女神、夫婦の仲をよくし、お産をかるくすませるなどの対象でとらえているようであるが、実はこの鬼、社会に善行を成す人、私利私欲に走らず、社会貢献の精神を重んじて、世のため人のために修行、布施を行う人を守護する善神の働き・作用を意味している。

この他にも教典や逸話のなかには、雪山童子の鬼など、良い使命をもつ鬼が多く存在する。とくに鬼子母神という言葉のように、母と子の絆は深く、社会的役割は大きい。

将来を語ると鬼が笑えるように、心身ともに健全な母子を育成し、健全な福祉社会を創造していきたいものである。